

学校番号	14	学校名	静岡県立浜名特別支援学校	校長名	村田 健二
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果◎と課題▲
【笑顔】環境づくり	安全で安心な学校生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難生活を見据えた備蓄品の定期的な点検、避難生活想定研修が実施されている。</li> <li>危機管理マニュアルの見直し 年1回以上</li> <li>様々な発災時に必要な避難行動を、訓練時に自ら行うことができている。</li> <li>避難生活に見通しをもてる体験活動を複数組み合わせ実施している。</li> </ul>	<p>&lt;防災課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度始めに1回、分掌課員を中心に備蓄品の点検と、夏季休業中に避難生活想定研修を実施することができた。</li> <li>危機管理マニュアルの見直しができたと答えた教員 94%</li> <li>事前学習で避難行動を確認したことで、児童生徒が訓練の意味を理解して避難することができた。</li> <li>避難生活に見通しをもてる体験活動を複数組み合わせ実施できたと答えた教員 100%</li> </ul>	A	<p>◎年度途中で教職員の体制について危機管理マニュアルの修正を行うことができた。</p> <p>◎テント、マンホールトイレの組み立て等、学部の実態に応じた体験活動を実施することができた。</p> <p>▲来年度は、初めて行う想定訓練等の後には、安全対策委員会を開催し、危機管理マニュアルの見直しを定期的に行う。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が校内外で事故やけが、病気から身を守る行動がとれている。</li> <li>常に事故や危険防止の視点をもって環境を整えている教員 100%</li> <li>緊急時に自分がとるべき行動を理解している教員 90%</li> <li>児童生徒が食に関心をもち、マナーを守って食事することができている。</li> </ul>	<p>&lt;体育保健課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が、準備運動やうがい、手洗いなど、けがや病気から身を守る行動がとれたと答えた教員 100%</li> </ul> <p>&lt;各学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>常に事故や危険防止の視点をもって環境を整えていると答えた教員 100%</li> </ul> <p>&lt;生徒指導課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアル研修、捜索訓練、緊急時対応訓練などを通して、緊急時に自分がとるべき行動を理解することができたと答えた教員 100%</li> </ul> <p>&lt;体育保健課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食事のマナーに気を付けて楽しく食べるための指導支援ができたと答えた教員 99%</li> </ul>	A	<p>◎日頃から指導することで、児童生徒自ら気付いて取り組む姿が見られた。</p> <p>◎学習集団で事故や怪我につながるようなことを予測し情報共有することで安全な環境づくりができた。</p> <p>◎児童生徒が安心安全に生活することができるよう各種訓練や職員研修を計画的に実施することができた。</p> <p>▲楽しく食べるための席の配置や、教室環境の工夫をし、その中で栄養教諭と連携しながらマナー指導をしたい。</p>

様式第3号

	取組 目標	成果目標	達成状況	評価	成果◎と課題▲
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務部との情報共有により校内で早期に対応する環境整備ができています。</li> </ul>	<p>&lt;総務課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務部との情報共有により校内で早期に対応する環境整備ができたと答えた教員 96%</li> </ul>	A	<p>◎事務室に修繕依頼があった時には、迅速に対応することができた。</p> <p>▲ごみの捨て方など、昨年度と変更したことは、分掌課内や事務室と共通理解を図りながら対応していく。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が、命の大切さを知り、自分や周囲の人を大切にしている。</li> <li>・人権教育全体計画や道徳教育全体計画に基づいた授業の充実が図れたと答える教員 100%</li> </ul>	<p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が周囲の人を大切にできるように、人権に配慮した支援や指導を行うことができたと答えた教員 98%</li> </ul> <p>&lt;生徒指導課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育全体計画や道徳教育に基づいた授業の充実が図れたと答えた教員 94%</li> </ul>	B	<p>◎児童生徒に気になる行為があった際には、即時的に指導することができた。指導を行う際に、学年内で解決するのではなく、組織で動き解決していくようにしていきたい。</p> <p>▲人権感覚チェックリストがただ提出するだけの物になりがちであった。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア同士で互いの授業を見合うことで、主体的に授業づくりに取り組み、授業改善を行うことができた教員 100%</li> </ul>	<p>&lt;研修課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ、グループ研究やペア研に取り組むことで、主体的に授業を見直し、自身の指導力の向上を実感できたと答えた教員 96%</li> </ul>	A	<p>◎なかなか見ることができない他学年の授業を参観できるいい機会になり、個人の授業力アップにつながった。</p> <p>▲授業を参観するために、都合をつけたり助勤を依頼したりと調整が難しかった。</p>
専門性の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家等による研修を実際の指導場面等に生かすことができた教員 100%</li> <li>・教員育成指標の段階に応じた研修により、専門性を高められたと感じる職員 80%</li> </ul>	<p>&lt;学習指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会や各学部・グループでの学習会・検討会を活用することで、個々の自立活動の目標に沿った活動内容や指導・支援につなげることができたと答えた教員 100%</li> </ul> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部のミニ研修やグループ研修をとおして、授業力や指導力の向上につなげることができたと答えた教員 100%</li> </ul>	A	<p>◎研修会を通して、現状の指導、支援の見直しをすることができた。来年度も継続して拝聴したい講演もあった。</p> <p>◎学部会で毎回様々なミニ研修を計画的に実施したため、学びを深めることができた。</p>

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果◎と課題▲
	働きがいのある職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の気軽な会話が、より良い授業づくりや円滑な業務の遂行につながった職員100%</li> <li>・業務改善や教員のやりがい向上につながる取り組みを行うことができた。学年、分掌、各1ずつ</li> <li>・常時19時、定時退勤日17時30分施錠と残留希望申し出(上限1時間)の徹底がされている。100%</li> </ul>	<p>&lt;全体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の気軽な会話が、より良い授業づくりや業務の遂行につながったと答えた教員97%</li> <li>・業務改善や教員のやりがい向上につながる取り組みを行うことができたと答えた教員93%</li> <li>・常時19時、定時退勤日17時30分施錠と残留希望申し出(上限1時間)の徹底がされていた100%</li> </ul>	A	<p>◎全体的に話しやすい雰囲気のもと、雑談を含め相談や会議での活発な話し合いができた。</p> <p>▲前年度踏襲にならないように、業務内容の精選を図ったり、気持ちに余裕がない時には、学年主任、分掌課長、部主事に早めに相談をかけたことで、業務の平均化を図りたい。</p> <p>◎勤務時間管理システムで確認し、全員時間外45時間、年間360時間以内であった。概ね19時退庁が徹底している。</p>
【仲間】活動づくり	仲間との学びの中で、主体性を発揮できる活動づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒個々の自立活動や個別の目標に沿った活動内容と指導・支援が組まれている。</li> <li>・個別の指導計画が授業の計画・反省時に活用され、児童生徒の育ちにつながっている。</li> <li>・授業づくりの評価に基づき、教科間のつながりや学習の積み上げの視点で、年間指導計画や教育課程の見直しができています。</li> </ul>	<p>&lt;教務課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画を教員間で共有し、授業の計画・反省時に活用することで、個々の児童生徒の育ちにつながったと答えた教員96%</li> </ul> <p>&lt;学習指導課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画について意見を出し合い、各教科等のつながりや学習の積み上げを意識することができたと答えた教員99%</li> </ul>	A	<p>◎学部会で共有する時間を作り、同じ学年の児童生徒の個別の指導計画の進捗状況を確認し授業に生かした学部があった。</p> <p>◎学部会のミニ研修で年間指導計画を話題にし、年度途中に教科間のつながりを確認することができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元に含まれる各教科の学習内容を具体化し、それを受けて単元目標を設定することができた。</li> </ul>	<p>&lt;研修課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合わせた指導において、各教科等の学習内容を踏まえた単元目標の設定をすることができたと答えた教員99%</li> </ul>	A	<p>◎学習指導要領を見やすくまとめたものを研修課が提示し、グループ会で活用した。研修テーマに沿って、単元目標の分析をすることができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的活動をとおり、児童生徒がワクワク(期待感と意欲)している姿が増えたり、仲間との関係が深まったりしている。</li> </ul>	<p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な活動を設定し児童生徒が協力して意欲的に活動に取り組む姿を引き出す授業づくりに取り組むことができたと答えた教員96%</li> </ul>	A	<p>◎児童生徒から出た意見をもとに授業展開を変えたり、体験的な活動を増やしたりし、児童生徒が授業に対して期待感や意欲を引出すことができた。</p>

	取組 目標	成果目標	達成状況	評価	成果◎と課題▲
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>キャリア教育の内容を意識し、キャリア発達に応じた授業を実践した教員 100%</b></li> <li>・ <b>本校における 12 年間をつなぐキャリアパスポートが整理され押さえられている。</b></li> </ul>	<p>&lt;進路指導課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育の内容を意識し、キャリア発達に応じた授業を実践できたと答えた教員 97%</li> <li>・ キャリアパスポートの考え方を理解することができたと答えた教員 97%</li> </ul>	A	<p>◎年間を通して、キャリアパスポートを使用して、自己分析、自己理解を深める授業づくりを実施することができた。</p> <p>◎学部のミニ研修の中で、キャリアパスポートについて研修を行い、考え方について共通理解を図ることができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>一人一台端末や BYOD 等を活用した、児童生徒が主体的で深い学びにつながる授業を、すべての児童生徒に対し、年 2 回以上実施している。</b></li> </ul>	<p>&lt;学習指導課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報端末を使用して、児童生徒が主体的で深い学びにつながる授業を、すべての児童生徒に対して年 2 回以上実施できたと答えた教員 95%</li> </ul>	A	<p>◎情報端末を使う場面を多々設けた。</p> <p>▲深い学びにつながる授業づくりができたか判断が難しい。</p>
豊かな日常生活を育む活動づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活年齢や発達段階に合わせた余暇につながる活動に、児童生徒が興味をもって自ら取り組んでいる。</li> <li>・ 家庭での取り組みへの呼びかけを実施。</li> </ul>	<p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本に親しむ機会や生涯スポーツ等を体験的な活動をとおして興味関心を広げることができたと答えた教員 100%</li> </ul>	A	<p>◎定期的に図書室を利用したり、授業の中で図書室の本を活用したりした。また、フロアカーリングやフライングディスクなど卒業後の余暇につながる学習を計画し、実施することができた。フライングディスクは大会に出場して入賞することができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集会やペア学年との活動をおし、他学部や他学年の児童生徒とあいさつを交わし合うことができるようになってきている。</li> <li>・ 体育的行事や学習発表会の中でお互いの活動を知り応援することができている。</li> </ul>	<p>&lt;生徒指導課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会を主体とする全学部が参加するあいさつ運動の実施をおして、他学部や他学年の児童生徒とあいさつを交わし合うことができるようになったと答えた教員 99%</li> </ul> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他学年、他学部との学習活動を設定し、関わり合いを大切に活動ができたと答えた教員 100%</li> </ul>	A	<p>◎小学部の児童が高等部の生徒の顔を覚えたり、高等部生徒が下級生の様子を知ったりと関わる機会を多くもつことができた。</p> <p>◎運動会やペア交流などでクラス以外の児童生徒が関わることもできた。また、さつまいもやチューリップの球根植えて小学部と高等部が関わり合いながら活動することができた。</p>

	取組 目標	成果目標	達成状況	評価	成果◎と課題▲
【地域】関係づくり	地域を知り、 地域を考え、 地域とつながる活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部間の系統性がある環境教育の目標と計画をもとに、学部の実態に合った環境教育が実践されている。</li> <li>・地域とつながり、連携した環境学習が展開できている。</li> </ul>	<p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実践できそうな環境教育について話し合った。それを参考にして、今年度は各学部の実態に応じて環境教育を実施することができた。</li> </ul> <p>&lt;総務課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部間の系統性がある環境教育の目標と計画をもとに、学部の実態に合った環境教育が実践できたと答えた教員97%</li> </ul> <p>&lt;総務課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とつながり、連携した環境教育が展開できたと答えた教員95%</li> </ul>	A	<p>◎図画工作、美術、学級活動などで使用する木の実等、学校周辺から拾い集めて使用したり、SDG sの視点で生活単元学習や家庭科の授業に取り組んだりすることができた。</p> <p>▲既に立てられていた年間指導計画に後から関連づけた感じになったため、年間指導計画を立てる段階で環境教育を設定する。</p> <p>◎稲刈りの見学や海岸清掃の事前学習に、地域の方が参加してくださった。また、清掃のやり方や木工作品のアドバイス等、外部の専門家から、専門的知識を教えていただいた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民との交流が生まれ、地域資源を活用した学習活動ができている。</li> </ul>	<p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を生かした体験的活動や環境教育を行うことができたと答えた教員97%</li> </ul>	A	<p>◎地域に出掛けての作業製品販売や、店舗の窓清掃に取り組んだ。</p> <p>◎学校運営協議会では、SDG sの視点でどのような地域環境を生かした学習ができるか協議した。これからの環境教育に生かしていく。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要なケースを正しく把握し、各機関等とつながりながら児童生徒や保護者の願いに寄り添う支援をしている。</li> </ul>	<p>&lt;特別支援課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援区分表を活用して、学部・学年間で支援の共有をすることや、必要に応じて関係機関とつながりをもち支援できたと答えた教員97%</li> </ul>	A	<p>◎支援区分表があることで、生徒の家庭状況を踏まえ現状を把握し、支援会議の必要性を見直すきっかけになった。また、各学部のコーディネーターがお互いの状況を把握するために情報交換の場を作った。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域へ分かりやすくタイムリーな情報発信ができている。</li> <li>・校内作品展や校外作品展、ホームページ上の作品展等を計画的に開催している。</li> </ul>	<p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPは定期的に情報発信することができた。COCOOは必要な時に必要な情報を発信することができた。Instagramは、旬な出来事を発信することができた。</li> <li>・計画的に校外の作品展に出展したり、校内掲示も学習の足跡が残るよう掲示したりすることができた。</li> </ul>	A	<p>◎情報を発信する際には、学校の魅力が伝わるよう、多くの目で確認することができた。</p> <p>◎居住地域の作品展や、県の作品展に出展することで、本校の児童生徒を理解していただく機会とすることができた。</p>

様式第3号

	取組 目標	成果目標	達成状況	評価	成果◎と課題▲
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が互いを知り合い、その中で自らを表現できる活動内容になっている。</li> </ul>	<p>&lt;特別支援課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流籍交流及び学校間交流では、児童生徒が相手の働きかけに応じて自分の思いを表現したり、自ら働き掛けたりできる活動内容を設定することができたと答えた教員99%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎交流籍交流では、事前打合せ、継続した交流体験から相手の働きかけに応じたり自分から話しかけたりすることができた。</li> <li>◎軽スポーツ部は、大会や湖西高等学校との合同練習を通じて、色々な人と関わることができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の幼保園や小中高からの依頼に対して必要なサポートをすることができている。</li> </ul>	<p>&lt;特別支援課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の幼小中高から相談が入り、コーディネーターが出向き助言をすることができた。</li> <li>・湖西市からは、2回講演会を依頼され、講演会後の感想からは充実した内容であったことが分かった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎近隣の学校からの依頼に対して、コーディネーターや進路指導課長などが、相談内容によって出向きアドバイスするなど、センター的機能を発揮することができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルプラットフォームの効果的な活用に向けての準備が整っている。 (教務 生徒 進路 体保 特支 学習)</li> </ul>	<p>&lt;教務課・関係分掌&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルを作成したり、課員が説明会を行ったりしたことで、教員が全児童生徒分の教育支援計画を作成することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎教員が円滑に活用できるよう、教務課長を中心に準備を進めることができた。</li> </ul>